

大分県情報サービス産業協会へ名称変更 平成10年度総会にて決定

県情報サービス産業協会平成10年度総会が4月27日午後3時から、大分市内ソフトパークの大分第2ソフィアプラザビル2階で開催された。司会は渡辺事務局長。

田中莞爾会長の挨拶に続いて、大分県商工労働観光部佐味祐介次長から祝辞をうけた。

議事に入り、平成9年度の活動実績報告、収支決算承認に続いて、平成10年度の協会活動方針、各委員会の事業計画、収支予算などを決議した。

続いて 協会会則改定が行われ、協会名称を「大分県ソフトウェア協会」から「大分県情報サービス産業協会」に改称することが決議された。協会設立時と異なり10周年を迎えた現在では、従来の名称ではなじまなくなったとし、情報サービス業にかかわる企業に広く入会いただくためにも、「ソフトウェア協会」より幅広いイメージを持つ名称に改訂したもの。

会議に引き続いて、㈱マリンパレスの川原大取締役館長より「ヤブニラミの環境問題について」と題した講演が行われた。

「環境」と「種の保存」との関わりについての興味ある話であった。

その後、恒例の懇親パーティがあり、秋月睦男顧問（大分県工業団体連合会会長）による乾杯に始まり、佐藤長久顧問の後任として新たに顧問になった工藤慎一郎氏

（大分県地域経済情報センター専務理事）の挨拶があり、1時間余にわたる和やかな歓談のあと宇津宮孝一顧問（大分大学工学部長）による万歳三唱で閉会した。



総会風景

ご来賓の大分県商工労働観光部長



講演のマリンパレス川原館長



大分県情報サービス産業協会のスタートに当り 協会10年の歩みを振り返る 正副会長会談

当協会は平成3年3月24日、大分県ソフトウェア協会として設立され、今年無事に10周年を迎えた。これを契機に協会名も「大分県情報サービス産業協会」に変更し、新しいスタートを切った。本日は協会設立当初から協会役員としてご尽力されて来られた田中会長、郷司副会長にお集まりいただき、当協会10年の歩みを振り返り総括いただくと共に、今後の協会活動の在り方について語ってもらった。
(司会 広報担当吉本)

設立当初の思い出

「司会」この10年間ご苦労も多かった事と思いますが、協会10年の歩みを振り返ると共に協会設立当初の経緯などお聞かせ下さい。

「田中会長」いや思い返してみますと全くあつと言う間の10年間だったですね。当時情報化の進展と共に大分にも新しい産業分野として「情報サービス産業」と呼ばれる企業が続々と誕生している。しかし業界としての横のつながりは無い。県下にどれ位の同業があるのか、どこがどんな技術を有しているのか全く不明……とにかく集まってみようと言う事になって当時OECの社長であった御手洗前会長の呼び掛けで集まる事になったわけです。正会員39社、賛助会員11社、計50社でのスタートだったと思います。



活発な委員会活動

「司会」協会活動の理念、目的とか活動方針は基本的に今も変わらず受け継がれて来ている事と思いますが……

「田中会長」基本的には（1）業界の地域社会に対する認知度を向上させる（2）会員相互間の交流を図りながら会員各社の技術力を向上させる（3）各社の得意技術を利用した



郷 司 副 会 長

会員相互間取引を推進し業界の振興を図る……等を目標に掲げ試行錯誤した10年間だったと思います。その為に「啓発交流」「展示推進」「技術交流」「視察研修」の4委員会を設け、この委員会活動を中心に兎に角動こうでスタートいたしました。

情産協今後の課題について

「司会」当協会の活動の特長は委員会活動にあると田中会長は以前から言われてますね。

「田中会長」そのとおりです。私も各種業界活動に携わって参りましたが、当協会ほど委員会が活発に動いて協会活動を下から盛り上げている業界団体は少ないと思いますね。

協会活動の中心を委員会活動に置いたのは正解だったと思いますし、今後もこれは堅持して行く方針です。

「郷司副会長」協会活動を陰で支えて来た事務局の努力も大きかったですね、やはりこの様な任意団体の活動は事務局がシッカリしているか否かで、活動の成果が大きく左右される。この10年間協会活動の基礎である委員会活動、理事会活動が九州各県の団体からうらやましがられる程、コンスタントに継続できたのも事務局の努力が大きかったと思います。

「田中会長」そうですね、これらの人々のお陰で10年間でほぼ協会活動の基礎固めが出来た。裏返して言えば、10年間は協会内部の充実に専念して来たと言って良いでしょう。外に向けての活動がこれからの課題になると思います。

「司会」では、大分県情報サービス産業協会として新しくスタートを切った当協会の今後の課題についてお話を伺いましょう。

「田中会長」今もお話したとおり10年は内部充実の時であった、その為にややもすると外に向けての活動が欠けていた事は否めません。国や県が打ち出す情報化の諸施策との連携、地元経済界との連携を目指し外に向けての活動を積極的に行う必要があると思います。

「郷司副会長」外に向けての活動を積極化させるにも、又地域社会に対する認知度を向上させるにも、やはり協会としての実力を持っていなければならない。協会内部の充実によって通産省に対しても、又大分県に対しても「情産協」の認知度はずいぶんと向上して来ました。先般JETROが招へいたJISP事業の対日投資視察商談会も、県より当協会に話が持ち込まれた。



田 中 会 長

この様に会員各社のアイデンティティを高め結束力を強め、其の団体として力を蓄え、業界の窓口として国や県、地元経済界に働き掛けて行くことがこれからは必要になって来ると思いますね。

「田中会長」情報化政策は国策として押し進められ、それが県の政策に反映して来る事が多い。従って県との接点は重要であると思う。地元企業の集りである当協会は、これ迄も大分県の情報化政策との連携を模索して来たが決して満足すべき状況には無い。副会長の言われた様に業界としての力を付け、認知度を高め、国や県に対する業界窓口としての機能を果して行きたいと思う。

協会活動は大きな視野で

「司会」業界としての力の源泉の一つである会員数の問題ですがピーク時の52社から現在48社と幾分減少していますね。

「郷司副会長」バブル崩壊後民間のコンピュータ投資減少時に業界の淘汰がすすみ、幾分減少したと思うが、無理な拡大を知らなくても良いと思い、協会加入に短絡的にメリットを求め、メリットが無ければ加入しないとの意見を持つ会社もあるが、協会活動は大きな視野に立って行うべきと思う。門戸は広く開放し加入は大いに歓迎し、又加入を働き掛けて行くが活動を良く理解して加入いただく事が大切だと思う。

業界全体のパイが大きくなり、企業数が増え、会員数が増加していくのが理想だと思います。

「**田中会長**」そのとおり。県下の情報化が進展し、業界に対する需要が増大する。結果として企業数が増え会員数が増える。このような結果が最も望ましいわけで、県下情報化の進展に協会として寄与できる様努力をして行くことが大切だと思いますよ。

法人化は将来の課題

「**司会**」次に当協会の法人化の問題ですが。

「**田中会長**」全国各県の情産協の実情を見ると既に半数以上が法人化されている。大分の様子に任意団体で活動しているのは少数派であるが、法人化にはメリットもあり、逆にデメリットもある。結論から先に言えば現状で法人化を図るのは時期尚早の感がする。将来の検討課題として考えている。

「**郷司副会長**」

予算規模も最低100万は要するだろう。従って会員の負担が大変重くなる。専任の事務局も置かねばならず、その経費も増大する。法人化した各県の実情では負担金の高さから会員の脱会が多い。法人化ゆえに会員数の増加が難しくなった現象が起こっている。当面任意団体での活動で良いのではないだろうか。



「**司会**」では最後に当協会名をソフトウェア協会から情報サービス産業協会に名称変更を行われたのは、特に意義がありますか？

「**田中会長**」

いや、これで協会活動の方針が変わるとか、中身が変わる事はない。むしろ現状の活動方針、会員の業種に協会名が不適切であったと言う事です。他県も大部分の所が情報サービス、情報産業を冠している。

ソフトウェアでは言葉の概念として範囲が狭い。実際に会員各社の顔ぶれを見てもソフト開発が主業務である会社だけではない。

「**郷司副会長**」全国的にソフトウェアを冠しているのは少数派であり、実情にも合わない。間口を拓き情報サービス産業に属する多くの会社に会員となって頂き、又その振興に寄与する協会でありたいと思う訳で検討を始めましたが、皆様のご賛同を得ました。

「**司会**」本日は誠に長時間ありがとうございました。お二人とも自社業務に多忙の事と存じますが、今後とも協会発展の為にご尽力下さいませようお願い申し上げます。



欠員役員の補充決まる

当協会役員の出身会社内での異動により、3名の役員より辞任の申し出があり、8月5日役員補充のための臨時総会を開催しました結果、下記の通り選任されましたのでお知らせします。

退任されました役員に対しましては、当協会発展のため多大のご尽力をいただきましたことに厚く感謝申し上げます。

尚新任されました役員に対しましても、今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願いします。

役員名	氏名	出身会社・役職
理事	岡田恒明	九州東芝エンジニアリング㈱ 取締役社長
理事	今坂宏行	㈱富士通大分ソフトウェアラボラトリ 代表取締役社長
理事	後藤英治	メビウス㈱常務取締役



岡田恒明



今坂宏行



後藤英治

技術勉強会『論文集発行される』

技術委員会では9年度の活動として、会員各社の中堅・若手技術者が集まり（14社41名参加）『技術勉強会』を実施し、去る3月20日に成果発表会を行なうと共に、その集大成として、『技術勉強会論文集』を発行いたしました。

この勉強会は会員各社の交流を深め、会員が抱える共通の技術的問題や課題、さらに多方面にわたる情報システムの効率的利用方法の協同研究を実施し会員各社及び協会の発展に寄与することを目的に実施したものであり、初回としては多大な成果を上げ参加者は勿論、会員企業のトップの方々や関係者から好評を博しました。

勉強会は6部門に別れ次のテーマで実施しました。

①ネットワーク部会：インターネットサーバ構築のためのガイドライン

- ②クライアントサーバ部会：C/Sシステムにおけるベンダーの責任について
- ③プログラミング部会：コンポーネントウェアについて
- ④データベース部会：Oracleを中心としたRDBの基本とテーブル設計手法
- ⑤プロジェクト管理部会：ファンクションポイント法について
- ⑥ビジネスソリューション部会：アウトソーシングについて

活動にあたっては、参加者の皆さんはそれぞれ仕事を持たれており「勉強会」のための時間作りや、最後の論文作りに重荷がかかる等苦勞もありましたが、例会を重ねる毎に気心も分かりお互い相互に切磋琢磨し不得手の技術習得や知識の向上も出来たり、或いは他人の色々な考え方に接し大変勉強になったとの参加者の感想でありました。

又何よりも有意義であったことは、日頃接する機会のない他の会社の方々との人的交流ができ、「貴重な体験で良かった」との意見が多く見受けられました。今回の『技術勉強会』に対してご満足いただいたものと技術委員一同安心している次第であります。

この『技術勉強会』は10年度も継続し実施いたしますので、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

【アンケート結果】今回の勉強会の満足度

満足 16名 (39%)
 普通 20名 (49%)
 不満足 5名 (12%)
 計41名 (100%)



協会イベントに若さはじける！熟年も負けずに

10周年記念ボウリング大会

当協会総務委員会主催のOISA設立10周年記念ボウリング大会が盛会に開催された。

会員会社の社員対象に相互の親睦とレクリエーションをかねて平成7年度から実施しており、今回は4回目の開催。回を重ねる毎に参加者もふえ、今回は29チーム116名が参加した。

夕刻開始のことでもあり、参加者には軽食も支給された。

ゲームは、会員会社から4人1チームで参加し、4人の2ゲームでのトータルスコアで得点を競った。

女性には1ゲーム15点のハンディをつけたが、女性が3割参加しており、華やいだ雰囲気なかで若者同士の交流がはかられ、表彰式を行って午後9時頃閉会した。

競技成績

チーム戦での優勝は、KK富士通大分ソフトウェアラボラトリBチームで、メンバーは渡辺邦彦、小島光司、宮永尚、白石秀徳の各氏でした。

個人賞は、男子ではKKオーイーシーの塩地貴氏、女子では同じくKKオーイーシーの帯刀

理香さんが、ベストグロ賞を獲得された。

その他の主な受賞チームと成績は別表のとおりでした。

来年度も実施予定

競技参加人数は、第1回25チーム100名、第2回28チーム116名、今回の第3回は31チーム124名と参加者は増加しており、会員各位のご協力に感謝するとともに来年度も開催予定ですので、次回も変わらぬご協力をお願いします。

順位	チーム名	総得点
優勝	(株)富士通大分ソフトウェア ラボラトリBチーム	1,271点
準優勝	(株)オーイーシー Bチーム	1,230点
3位	太平工業(株)	1,210点
5位	エス・シー・エス(株) Aチーム	1,125点
7位	NTT大分 Bチーム	1,105点
10位	(株)アトムス事務器	1,057点

第2回 OISA親睦ゴルフ会

当協会総務委員会の企画で、OISA第2回親睦ゴルフ会が協会行事として開催された。

会員対象に相互の親睦とレクリエーションをかねて大分中央ゴルフクラブで行われた。

当日は天気もよく、秋晴れのもと和やかに歓談しながら、各人の腕を競った。

参加会費はひとり3,000円、競技方法はダブルペリア方式でおこない、賞品も準備し、競技終了後に同会場で表彰式を行った。

今回の競技成績は次のとおりでした。

優勝は、小野雄司氏 (KKオーイーシー) で、グロススコア97、ネットスコア73 (ダブルペリアハンディ24.0) でした。

準優勝は、吉本安宏氏 (大銀コンピュータサービスKK) で、同順で97, 74.2 (22.8)。

3位は、山田晃正氏 (新日鐵情報通信システムKK) で、同順で81, 75.0 (6.0)。

今回は開催準備が遅れたこともあってか、参加者が少なかったので、次回は早めに企画・案内してより多くの方にご参加いただきたいと思います。



ボウリング大会



ゴルフ熟年組(?)の皆さん



優勝：OSL Bチームの皆さん



ベストグロ賞：菊地・帯刀の両氏

新入会員のご紹介

有限会社 築城ソフト研究所
代表取締役 築城敏治 (つゆきとしはる)
住所 大分市賀来3246番地
電話 097-549-6386
FAX 097-549-6386
E-mail: tsl@fat.coara.or.jp



『みなさま
どうぞよろしく』

新しいメンバーが
増えました。
会員一同心より歓迎いたします。
パチパチ

パチパチ

築城敏治氏